

## 「南高山の未来をみんなで描こう！」 「南高山・観光まちづくりフォーラム」

去る3月14日、虹流館くぐのを会場に「南高山・観光まちづくりフォーラム」が開催されました。「一之宮・久々野・朝日・高根の南部4地区が手を取り合い、自分たちの足元にある宝物を見つめ直したこの一日。会場には約200名が詰めかけ、ロビーでは宮笠や地元産ワインなどの特産品展示も行われるなど、地域一体となった熱気に包まれました。



熱い提案をされた登壇者の皆さん

### 【第1部】 それぞれの現場から届く「希望の種」

トップバッターの砂田一彦さん（ひだ桃源郷くぐの観光協会副会長・柳島）は、観光現場の切実な課題を共有しつつも、「本物」や「体験」を軸にした広域周遊の必要性を強調。点と点をつなぎ、面で楽しむ観光への転換を呼びかけました。

続いて登壇した久々野中学校の生徒たちの発表には、会場から温かな拍手が送られました。人口減少や交通の不便さを嘆くのではなく、「小屋名しようけ作り」や「魚釣り」など、自分たちが大好きな久々野をどう楽しんでもらうか。その瑞々しい感性は、大人たちの心に深く響きました。

一之宮の熊本裕二さんは、祭りの担い手不足という現実に触れつつ、地域間の連携が伝統を守る鍵になると語り、久々野の桐山淳一さん（株MGN代表取締役・上組）は、Eバイクや森のサウナなど、多様な人々が関わることで生まれる「新しい山の遊び方」をエネルギーギッシュで紹介。朝日の長瀬浩一さんが語った「何気ない日常こそが地域の宝」という言葉は、私たちが忘れかけていた視点を思い出させてくれました。鈴蘭高原の「星売ペンチ」のように、少し目線を変えるだけで、景色は最高のご馳走に変わります。

高根の増田勉さんからは、外の人と地域が深く関わる拠点として「合

宿所」の重要性が説かれ、交流から生まれるエネルギーの大きさを再確認。

さらに、地域おこし協力隊のヘイグ・ジョールさん（柳島）とベントレラ・フィリップさんは、海外からの視点で「日本の原風景や文化体験こそが世界を魅了する」と、私たちの日常の価値を力強く肯定してくれました。

### 【第2部】 「日常」という名の最強の観光資源

後半のディスカッションでは、さらに深い議論が交わされました。米田誠司さん（國學院大学教授）は、観光と移住の間にある「滞在」に着目し、地域の日常をそのまま提供する、心地よさを提案。

山腰和重さん（飛騨・高山観光コンベンション協会専務理事）は、「自分たちの日常を誇りに思うこと」こそが、訪れる人の満足度を高める出発点だと語られました。

現場でガイドを務める杉山智子さん（信飛トレイルクラブ理事）が語る、地域の人とのふれあい、涙する旅行者のエピソードには、誰もが「自分たちにできるおもてなし」のヒントを見つけたはず。そして長瀬雅彦さん（ぎふ森のある暮らし推進協議会理事・反保）は、自然・人

経済が循環する持続可能な仕組みづくりの大切さを説き、人材育成の必要性など、未来への責任を示されました。

### 結びに…南高山は、ひとつの家族のように

最後に、コーディネーターの中澤朋代さん（有ローカルクリエイティブ代表取締役）はこう締めくくられました。「観光まちづくりとは、特別なことではない。地域の人みんなで日々の暮らしを見つめ直し、その価値を愛でること」地区の垣根を越え、南高山としてつながりながら、自分たちの歩幅で未来を描いていく。このフォーラムは、私たちの身近な暮らしの中にある「幸せ」を再発見する、大切な記念日となりました。

さあ、次は私たちが、この「夢の種」を久々野の土に蒔いていく番です。10年後の子どもたちが「この町に生まれてよかった」と笑顔で語れる未来を、共に創っていきましょう。



展示ブースでは、各地の特色をPR



華やかな雛壇を背景に、とっておきの一枚が撮れました

時代を超えてつながる笑顔  
— ひなさま展と「がんばろうち」

春の陽気に誘われるように、3月15日(日)、久々野公民館で「がんばろうち」が行われました。

一歩足を踏み入れれば、そこは2,200体の雛人形が迎えてくれる桃源郷。お菓子を手にして喜ぶ子どもたちの元気な声が響き、色鮮やかな衣装をまとうて記念写真に収まる姿は、まるでお雛様が現代に飛び出してきたかのような愛くるしさでした。

展示されている雛人形の中には、地域の方々から大切に受け継がれたものも多くあります。「また会いに来たよ」と、かつての家族の思い出を懐かしむように静かに見守る来場者の姿もあり、時代を超えて

地域で雛祭りを祝う心の温かさが感じられる一日となりました。この「ひなさま展」は4月3日(金)まで開催中です。皆さまお誘い合わせのうえ、ぜひ足をお運びください。

飛驒の技、次代へ  
小屋名しよけ・有道しゃくし  
講習会が全日程を終了

昨年10月から全10回にわたって開講された「ふるさと名人継承講習会」が、この3月に無事終了しました。最終日には、竹や木に向き合ってきた受講生の皆さんに、各保存会の会長から修了証書が手渡されました。

「二十四日市」での販売などを通じて、この活動の輪は着実に広がっています。最近では久々野地域外からの参加も増え、中には林業の仕事で飛驒へ赴任したことをきっかけに、しよけ・しゃくしの両方の技を習得し、自らの仕事に生かそうと奮闘する若者の姿もありました。伝統の技が、新しい世代の情熱と出会い、今の時代にふさわしい形で芽吹こうとしています。

また、有道しゃくし保存会では令和8年度、文化庁の支援を受け、制作手順を克明に記録する映像制作を予定しています。鉦(なた)や鋸(のこぎり)を振るい、丸太からダイナミックに形を削り出していく名人たちの力強い足跡は、貴重な歴史資料であると同時に、未

来の「名人」たちへの何よりの教科書となるはず。受け継がれてきた手仕事の温もりと、それを守り抜く人々の誇り。久々野が誇る「本物の技」は、これからこの地で、大切に、力強く、未来へと紡がれていきます。



修了証書を受け取る受講者

夢の中にこそ、久々野の未来がある  
中学生が描く「私たちのまち」

3月9日と11日の両日、虹流館くぐのを会場に、久々野中学校1・2年生による「総合的な学習の時間」の発表会が開催されました。会場にはご家族や地域の方々が多数詰めかけ、生徒たちの真剣な提案に耳を傾けました。

今回の話題の中心は、「まちづくり」「まちおこし」。生徒たちは久々野の課題を見つめ直し、特産のりんごやブランド化した「美峰鮎(び

ほうあゆ)」、そして豊かな山・水・雪といった自慢の資源をどう生かすかなどをグループごとに模索してきました。

提案は多岐にわたる、堂之上遺跡での土器づくり体験や、空き家を活用した憩いのカフェ、さらには新商品の開発まで、どれも「久々野を笑顔あふれる、誰もが誇れる町にしたい!」という純粋な想いが溢れるものばかり。実現に向けてクラウドファンディングの導入を考えるなど、その具体性と熱意には驚かされるばかりでした。

発表を見守ったまちづくり審議会の山崎達男会長(西洞)は、「柔軟な考えでどれも実現可能。夢の中にこそ久々野の未来がある。子どもたちが戻ってきて未来を創れる場を準備するのが大人の役目」と語られました。

中学生が描いた夢の種を、私たち地域の大人がどう育てていくか。久々野の新しい明日が、今からとても楽しみになる発表会でした。



久々野への愛が詰まった、10代の挑戦



久々野の未来をAIでもっと面白く！

## AI、はじめの一步！ 上水流信秀先生に学ぶ 「これからのAI活用術」

最近テレビや新聞で目にしない日はない「AI(人工知能)」。便利そうだけど何だか難しそう……そんな私たちの不安をワクワクに変えてくれる講習会を開催しました。講師にお招きしたのは、情報モラル教育研究所の上水流信秀先生です。

講習が始まると、上水流先生のユーモアたっぷりの語り口に、会場は一気にリラックスモード。AIは決して特別なものではなく、私たちの「言葉」を理解し、生活を助けてくれる身近なパートナーであることを、実例を交えて楽しく教えていただきました。

特に驚いたのは、その進化の速さです。画像を作ったり、文章を要約したり。上水流先生の鮮やかな実演の前に、参加者の皆さんも「そんなことまでできるの!」と、最後まで前のめりで耳を傾けていました。

「今回の講演はあくまで入り口です」と語る上水流先生。今後は日々の生活での利用はもちろん、自分の仕事の効率化や、久々野の観光をさらに盛り上げるための具体的な活用法についても、またぜひ皆さんと一緒に考えていきたいと力強くお話しくださいました。

正しく知って、賢く使う。AIという新しい道具を手に入れた私たちのまちづくりが、これからどう変わっていくのか、今からとても楽しみです!

## 小さな資源が、大きな笑顔に 令和7年度 リサイクル活動報告

3月16日(月)、久々野まちづくり協議会リサイクル委員会の総会が開催されました。この1年間の活動を振り返るとともに、新旧役員の引き継ぎが行われ、次年度への決意を新たにする節目となりました。

### 地域の子どもたちの未来のために

表のように、皆さまのご協力により、今年度のリサイクル資源回収(春秋2回)の収益金、市からの報奨金、およびゴミシール回収補助金を合わせた収益総額は、

467,091円となりました。

この大切な資金は、子ども会育成会や小中学校PTA、青少年育成会の活動資金として活用されます。皆さまが丁寧に分別してくださった新聞紙や雑誌、段ボールが、地域の子どもたちの体験や学びを支える力強い「エール」に変わりました。

### 久々野から世界へ届く、温かな支援

また、「家庭に眠っていた」「書き損じはがき」や「未使用切手」の回収にも、たくさんの方の善意が寄せられました。

- 書き損じはがき…401枚 (27,532円分)
- 未使用切手…551枚 (37,632円分)

これらはNPO団体を通じて、途上国へのワクチン支援や学校建設、難民支援、そして地球を守る環境保全活動など、世界中の困難に立ち向かう人々のために役立てられます。

一枚のがき、一回の分別。皆さまの「ひと手間」が、久々

令和7年度	リサイクル活動による収益	
	4月12日	11月8日
ダンボール	6,180kg	6,420kg
新聞	13,070kg	14,080kg
雑誌	9,670kg	7,580kg
牛乳パック	370kg	510kg
合計	29,290kg	28,590kg
売上	32,219円	31,372円
市からの奨励金	149,450円	142,050円
収益合計	181,669円	173,422円
ゴミシール	14,775枚	112,000円
リサイクル収益 計	467,091円	

野の、そして世界の明日を明るく照らしています。1年間の温かいご理解とご協力を、本当にありがとうございました。

## 「ご協力のおかげ!」無料可燃ごみ処理券(ゴミシール)の回収

まちづくり協議会リサイクル委員会では、本年も「無料可燃ごみ処理券」の回収を行います。

この活動を通じて、高山市より1枚につき約7.6円の補助金が交付されます。いただいた補助金は、子ども会などの地域活動を支える貴重な財源となります。

ご家庭で余っている処理券がございましたら、ぜひ回収への協力をお願いいたします。

①ハサミで切る

②不燃ごみ処理券は捨てる

③可燃ごみ処理券だけ台紙に貼ったまま回収

## お知らせ

絶景の360度パノラマ！  
初夏の風を感じる

「高屹山山開き登山」

ゴルデンウィークの締めくくりに、久々野が誇る名峰「高屹山」でリフレッシュしませんか？新緑がまぶしい季節、一歩一歩踏みしめる土の感触や、森の香りは最高のご馳走です。約3時間半の道のりを乗り越えた先には、最高のプレゼントが待っています。山頂から見渡すのは、青空に映える残雪の北アルプス、御嶽そして白山……。360度遮るもののないパノラマは、何度見ても「久々野に住んでいてよかった！」と思える感動の景色です。

「子どもの日」の思い出づくりに、ご家族や親子でのご参加も大歓迎！事前申し込みは不要ですので、当日の体調や気分に合わせて気軽にお越しください。

◆高屹山山開き登山（ふれあい市民登山）  
◆期 日：令和8年5月5日

(火・祝)

◆集合場所：久須母飛驒川河川公園

◆時間：午前7時30分受付／8時出発(午後1時頃下山予定)

◆参加費：200円(保険料込み)

◆持ち物：お弁当、飲み物、雨具など

◆お問合せ：久々野まちづくりに協議会

※雨天の場合は中止となります。みんなので、心地よい汗を流して、素晴らしい景色を分かち合いましょ！



昨年の登山の皆さん

## 第26回ひだ桃源郷くぐのアマゴ釣り大会

◆期 日：5月2日(土)  
◆時間：当日受付は、午前7時15分から

◆場 所：益田川上流特別区域

◆参加費：一般男女 3,000円  
小学生 1,000円

◆参加定員：200名

◆漁 法：餌竿釣りのみ

◆審査・表彰：ルアー、フライ等の漁法は禁止

◆部 門：一般女子の部、一般男子の部

◆問合せ：益田川上流漁業協同組合

◆各部門5位まで表彰

◆問合せ：5212257



昨年の様子

## 世界を魅了するピレノの音色が久々野に！山中千尋トリオ・スペシャルライブ開催

久々野に、世界が誇るジャズ・ピ

アニスト、山中千尋さんが帰ってきます！3度目の来高となる今回は、ベースに畠山令さん、ドラムに倉田大輔さんを迎え、より熱く、洗練されたサウンドを届けてくれます。

ニューヨークを拠点に、リリースするアルバムが次々とチャート1位を獲得するトップアーティストの生演奏を、私たちの久々野公民館で味わえる貴重なチャンスです。新緑の5月、最高峰のジャズに身をゆだねて、心躍るひとときを過ごしませんか？

◆日 時：5月23日(土)18時開演  
◆場 所：久々野公民館ホール  
◆チケット：4月4日(土)10時より一斉発売開始  
(一般3,000円、ジュニア500円など)  
お申し込みは、久々野公民館または高山市文化会館まで！



## くぐの散歩道

### 春を運ぶ「リモートがんどうち」

「あ、あった！これやー！」久々野公民館の和室、雛壇の前でおいさまの明るい声が響きました。寄託された「わが家のひなさま」を見つけた喜びの瞬間です。おじいさんはおもむろにスマホでテレビ電話を繋ぎました。

「これや、これや！」画面の向こうからも弾んだ声。お相手はお孫さんです。目の前で微笑むお雛様は、かつておじいさんがそのお孫さんのために贈った、大切な思い出の品でした。

「ほら、これがお母さんのお雛様やよ」画面越しにわが子(ひ孫さん)へ語りかけるお孫さん。自分が愛された証を、今度はわが子に見せてあげたい。そんな親心が電波に乗って、静かな和室へと届きます。

けれども、聞こえてくるのは元気な足音ばかり。「だめや、興味ないみたいー」とお孫さんの苦笑い。今はまだ追いかけてこの方が楽しい盛りですが、その健やかな笑い声こそが、お雛様に込められた一番の願いなのでしょう。わが子、わが孫、そしてひ孫へ。形を変えても、幸せを願う心は変わりません。家族の物語を紡ぎ続けるお雛様たちは、今年も温かな再会を届けてくれました。

## 今後のイベント・行事

★高山消防団久々野支団 辞令交付式・春季訓練

4月5日(日) 9:00～

★保育園入園式

4月6日(月) 10:00～

★小学校入学式

4月9日(木) 午後

★中学校入学式

4月9日(木) 午前

★ハローワーク巡回職業相談

4月10日(金) 13:00～15:00

虹流館くぐの

求人情報等提供 就職に関する相談

★リサイクル資源回収

4月11日(土)

8:00～9:30

★久須母橋鯉のぼり吹き流し

4月27日(月)～5月5日(火・祝)

★ひだ桃源郷くぐの

アマゴ釣り大会

5月2日(土)

飛驒川河川公園

★高屹山山開き

5月5日(火・祝)

8:00までに飛驒川河川公園集合

イベントが変更になる場合があります。